

## ラムサール条約って何？

ラムサール条約の正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。湿地は、農業や漁業を行う場所として、私たちの暮らしを支えています。

湿地を守り、私たちが自然の恵みをいつまでも活用できるように、世界の国々がイランの都市「ラムサール」で話し合いを行いました。そこで交わされた国際的な約束が、ラムサール条約です。

2018年10月18日、南三陸町の歌津・志津川・戸倉の海域を含む南三陸町の手全体が「志津川湾」としてラムサール条約湿地に登録されました※。日本で52番目、世界で2358番目のラムサール条約湿地です。東北では初の海域の条約湿地であり、海藻の森＝藻場の貴重さが認められての登録は国内で初めてです。

ラムサール条約は、「保全・再生」と「賢明な利用（ワイズユース）」を目的とし、そのための「交流・学習」を進めることを重視しています。

※志津川湾 は9つの国際基準のうち、以下の5つの基準を満たしています。

「(基準1) 特定の生物地理区内で、代表的、希少または固有の湿地タイプを含む湿地」、「(基準2) 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地」、「(基準3) 特定の生物地理区内における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地」、「(基準4) 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地」、および「(基準6) 水鳥の1種または1亜種の個体群の1%以上を定期的に支えている湿地」

### 保全・再生

私たちの暮らしを支える重要な湿地の生態系を守ること

### 賢明な利用

湿地の恵みを大切に賢く利用すること

### 交流・学習

湿地を通じた学習・交流活動、広報・普及活動を行うこと

## 調査・研究

南三陸町自然環境活用センター（南三陸ネイチャーセンター）では、一年を通して様々な調査・研究を行っています。その一つに、2008年から行っている海藻類の生育状況を記録する調査があります（モニタリングサイト1000調査）。

また、採集した生きものの標本作成や保存、遺伝子（環境DNA）を使った魚の分布調査などを通して、志津川湾の生物多様性の把握に努めています。



## 普及・啓発

志津川湾のラムサール条約湿地登録をきっかけに、町内の子どもたちによるエコクラブ『南三陸青少年自然調査隊』が結成され、地元の自然や文化の魅力・価値を発見し伝える活動を続けています。また、志津川高校自然科学部では、干潟や川の生きもの調査を通して、地域の環境を守る活動を行っています。



## ASC・FSC®

持続可能で適切に管理された産業を目指し、海ではASC認証※を受けたカキ養殖、山ではFSC®認証※を受けた林業が営まれています。

※ASC（水産養殖管理協議会）、FSC®（森林管理協議会）が管理・運営する国際認証制度



写真：WWFジャパン

## ◆交通アクセス

- 〔車〕
- ・三陸自動車道 志津川ICから約6km（約8分）
  - ・三陸自動車道 南三陸海岸ICから約8km（約11分）
  - ・JRくりこま高原駅から約50km（約1時間）
  - ・東北自動車道 築館ICから約60km（約1時間10分）
- 〔BRT〕 JR気仙沼線BRT志津川駅→ベイサイドアリーナ
- 〔高速バス〕 仙台駅前→宮城交通高速バス気仙沼行き（約1時間40分）→BRT志津川駅



### 南三陸町役場 農林水産課

〒986-0781  
宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田101番地  
電話 0226-46-1378  
担当／自然環境活用センター  
電話 0226-25-9703



- ① 南三陸町自然環境活用センター  
② 南三陸・海のビジターセンター  
③ 宮城県志津川自然の家



# 志津川湾

ラムサール条約登録湿地



南三陸町

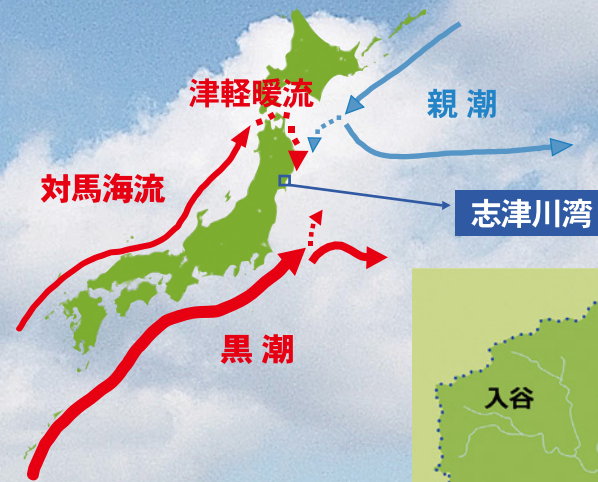
# 志津川湾について

## ラムサール条約湿地志津川湾

面積：5793 ha

保護制度：国立公園海域公園地区

志津川湾は、寒流と暖流が混ざり合う独特の海洋環境の中にあります。そのため、冷たい海の生きものと暖かい海の生きものの両方がみられる、生物多様性の高い海です。また、南三陸町を取り囲む山々の連なり（分水嶺）が町境となっています。町に降った雨は川を伝い、森や人々が暮らす里からの栄養を取り込んで志津川湾に注ぎ込み、豊かな海を支えています。



## 渡り鳥の越冬地

国の天然記念物と絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類：宮城県・環境省）に指定されているコクガンやオオワシ、オジロワシなどの希少な海鳥が毎年冬を越しにやってきます。

志津川湾は、波が穏やかな環境や、エサとなる海藻や海草を育む藻場が十分にあることなど、コクガンたちが安心して冬を越すことができる場所なのです。



オジロワシ



オオワシ

※写真：南三陸ネイチャーセンター友の会



コクガン

## 志津川湾の藻場



マコンブ



アラメ

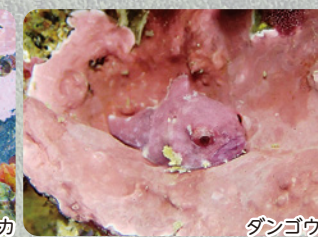


アカモク

### 特徴的な海の生きもの



クチバシカジカ



ダンゴウオ



ウミクワガタ



タチアマモ

## 漁業の歴史や浜辺の様子



ウニ漁 (戸倉)



ノリ干し場 (松原・昭和30年ごろ)



ワカメ干し (戸倉・長清水)



チリ津波

## 志津川湾の漁業



ギンザケ養殖



カキ養殖



ワカメ養殖



ホヤ養殖



タコかご漁



ホタテ養殖

志津川湾では昔からウニ・アワビ漁、タコ漁などの漁業が盛んにおこなわれてきました。明治時代に始まったノリの養殖を皮切りにワカメなどの養殖業が始まりました。

海は人々に恵みをもたらすこともありますが、大きな災害をもたらすこともたびたびありました。1896年の明治三陸地震、1960年のチリ地震、2011年の東北地方太平洋沖地震に伴う津波で大きな被害を受けています。

現在、志津川湾では、漁船漁業や定置網漁業、養殖業が営まれており、南三陸町の重要な基幹産業となっています。

漁船漁業…春(イサダ漁) 夏(タコかご漁：水ダコ、ウニ漁)  
秋(秋サケ漁、タコかご漁：マダコ) 冬(アワビ漁、マダラ漁)